

学校名	岐阜県立大垣桜高等学校
-----	-------------

平成 27 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

CHANGE SAKURA

～**技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト**～

2. 研究の目的

(1) 服飾デザイン科

目指す生徒像として、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技術を育成するとともに、グローバルな視野からものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションを世界に発信することができる、ファッションビジネスリーダーやグローバルファッションクリエイターを育成する。

そのために、東海地区の地場産業である繊維産業が有する技術力、デザイン力の高さを再確認し、世界に誇れる技術や日本の文化を理解し、オリジナルテキスタイルの提案、修正・改善を繰り返すことで、ビジネスとしての繊維生産の在り方を調査研究する。また、その生地を使ったオリジナルデザインの洋服を提案、商品化し、地場産業の活性化を目指す。さらに、業界をリードする国内外の学校と連携し、最先端のファッションの動向を把握するとともに、語学研修や海外研修、遠隔交流などを通して、異文化理解、国際感覚を身に付けるとともに、豊かな語学力、コミュニケーション能力の育成を図る。このような取組を通して、ファッションに関するより高度な専門的知識・技術を習得し、新たなファッショントレンドを創造・発信する素養や表現力、探究心を身に付けた人材を育成する。

(2) 食物科

目指す生徒像として、県立高校唯一の調理師養成施設としての食物科において、高度な調理知識・技術と豊かな感性を身に付け、食文化の伝承や、より良い暮らしを支え、「食」の企画・提案ができる「食」のフードクリエイターを育成する。

そのために、地域の関係機関や産業界と連携して、生産者・消費者の現状やニーズを調査・分析するとともに、地域に暮らす様々な人々との関わりを深めながら、地域の食文化への理解を深める。また、若い感性と柔軟な発想で地域農産物の特徴を生かしたオリジナルレシピや商品・サービスの開発、食生活の改善等の提案を行うなど実践的な活動を通して、地域の食文化の発展に寄与する態度を育成する。さらに、地域に暮らす外国人市民との共生、日本の食文化及び他国の食文化を理解する機会を通して、グローバルに生きる感覚を育むよう、官学一体となった国際理解交流を進める。

3. 実施期間

契約日から平成28年3月15日まで

4. 当該年度における実施計画

服飾デザイン科

(1) 地元企業とのコラボレーション

ア 研究のねらい

地場産業である繊維産業について再確認し、繊維が生地になるまでの生産工程を体験学習し、地域産業の理解を深める。さらにファッション産業界について、強い興味関心をもつとともに将来、同産業界に従事し、企画から生産、加工・流通・販売というファッションに関する総合的なマネジメント力と、創造性豊かなオリジナル作品の製作に意欲的な人材を育成する。

イ 具体的な事業内容

①岐阜県繊維協会、生地製造企業との連携

岐阜県、愛知県は、繊維産業が盛んで生地製造企業が多く、全国には珍しく羊毛から生地までの一貫生産を行う企業や、繊維産業の振興を推進する繊維協会が存在する。これらの企業や協会と連携することにより、繊維業界の現状と課題を知るとともに最新の情報収集を行うことが可能である。

○テキスタイルマテリアルセンター見学・生地調査

岐阜県羽島市にあるテキスタイルマテリアルセンターは、日本全国のファッション衣料用素材を集積した国内最大のテキスタイル資料館である。このセンターでは、素材に関して日本のものづくりを学ぶ支援をしており、産地の匠による素材セミナーや産地研修会も開催されている。岐阜県繊維協会の協力を得て、5月に1～3学年がそれぞれの日程でテキスタイルマテリアルセンターを見学し、全国素材展や上海展に出品された所蔵の生地を自ら見分し、手で触れることにより、新たな発想を呼び起こしオリジナルテキスタイルの考案に繋げる。

[教育課程上の位置付け]

1年生は、科目「生活産業基礎」、2・3年生は科目「服飾手芸」において研修を位置付ける。実施時期は、5月にそれぞれの科目の学習内容に合わせた日程で行う。

○繊維製造工程の学習

本校近隣の紡績一貫メーカー3社にて企業見学を行い、生地の製造工程を学習する。同企業は糸から染色、生地生産まで一貫して行う国内でも数少ない企業である。また、それぞれの企業では常に新素材の開発を進めており、その開発秘話を聴取し、新素材で製作された衣服のサンプルを直に見学する。生徒はこれらの工場を見学することで生地に対する考察を深め、衣服のデザインはシルエットや色だけではなく、消費者ニーズに合った素材をどのように提案していくかということの重要性について深く学ぶ。

[教育課程上の位置付け]

1年生は科目「生活産業基礎」、2年生は科目「ファッションビジネス」、3年生は科目「服飾手芸」において研修を位置付ける。

○オリジナルテキスタイルの企画・提案・製作

テキスタイルマテリアルセンターや、繊維製造工程の見学により、習得した知識を基に、オリジナルテキスタイルの企画・提案・製作を行う。まずは、コンセプトのプレゼンテーションを行い、繊維協会、企業などから改善点のアドバイスを受けるなどのミーティングを重ね、最終的には、オリジナルテキスタイルを活用した製品の製作に取り組む。さらには、商品化を目指す。

○岐阜県警との連携による交通事故防止啓発反射材使用のファッション提案

岐阜県警による「交通弱者の交通安全意識の向上及び夜間の交通事故防止を図る運動のキャンペーン」に参加・協力し、反射材を衣服に取り入れたファッションの提案を行う。企画、提案の段階において岐阜県警とのミーティングを重ね、依頼者からの要望を作品に生かすための能力を養う。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」において研修を位置付ける。実施期間は、5月オリジナルテキスタイルの企画提案、6月から8月末オリジナルテキスタイルの製造、9月からオリジナルデザインの洋服を製作する。

②名古屋モード学園、地元アパレル企業との連携

名古屋モード学園は、公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターのプロダクト事業に参加し、尾州産地の生地を使用して製作した衣装約40点を提案するファッションショーを行うなど、産学連携を積極的に実施している。そうした国内のファッション専門学校と連携し、さまざまな取組を通して、生徒の技術や感性、創造力を育成する。

○地元素材を使用したオリジナルファッションの提案

名古屋モード学園の学生と本校服飾デザイン科3年生のコラボレーションにより、地元素材を使用したオリジナルファッションの企画・デザインを行う。この学習の場を通して、現代のファッション業界の進む方向について、自由な発想力と感性を育むとともに、それをバイヤー等に説明できる論理的な思考力の育成、表現力を身に付ける場として位置付ける。また、最新のトレンドを予測した斬新なデザインの発想、感性豊かで多彩な表現力を持ったデザイナーとしての卵を育成する場としても位置付ける。また、名古屋モード学園のファッションショー等の発表会の場で、高校生の選抜された作品を披露し、ファッション業界の広い視点と専門的な視点から、デザイン力、パターン力等に対する指導を受けることにより、高い専門的な知識・技術を習得し、感性豊かで多彩な表現力をもったデザイナーの育成を図る。

また、一宮地場産業ファッションデザインセンターのプロダクト事業である「JAPAN YARN FAIR」&総合展「THE 尾州」においては、生徒が企画・製作した作品を同展示会に出展させるとともに、バイヤーによる模擬商談会を実施し、生徒によるプレゼンテーション能力を鍛えるなど、将来、ファッション業界に従事するうえで、必要な資質・能力を涵養する。

さらに、名古屋モード学園の協力のもと、地元の企業（名岐アパレル）に協力を得て、製品化を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」、2年生科目「ファッションビジネス」において研修を位置付ける。

○卒業研究作品発表会の開催

平成27年度、第42回服飾デザイン科卒業研究作品発表会を開催する。3年間の学習を通じてファッションに関する知識と技術を身に付け、検定やさまざまなコンテストに積極的に挑戦して自己の技術を高め、感性や想像力を磨いている。今年度は、地場産業である繊維産業と連携をし、地元企業の素材を使用したオリジナルデザインの洋服を製作し、卒業研究作品発表会で披露する。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」、「ファッションデザイン」、「服飾手芸」、「ファッション造形」に位置付ける。

(2) 国際感覚とコミュニケーション能力の育成

ア 研究のねらい

海外研修や国内外のファッション学校との遠隔交流、海外留学生との交流を通して、国や地域が違うごとに着目点や考え方、感じ方の違いを学習するなど異文化理解を深め、国際感覚を養う。また、ビジネスシーンにおける実用的な英会話能力を育成する。

イ 具体的な事業内容

① エスモードジャポンとの連携

エスモード東京校に通うフランス人留学生を本校に招き、フランスと日本のファッションに対する考え方や文化の違い、東京でファッションを学ぶ意義、将来の目標などについて語り合い交流を深める。この交流によって、世界を身近に感じるとともに、同じ世代の学生がファッションを学ぶ姿勢に刺激を受け、今後の学習への意欲向上を図る。

○海外研修（フランス研修）

10月に、フランス・エスモードパリ校への研修を企画し、基本デッサン、レディスフィギュリン(人体研究・着色表現)、ファッションイラスト、トレンドの理解、色彩表現、プリント企画入門、アイテムの理解とデザイン展開(ブラウス・シャツ・ワンピース・スカート・パンツ・ブルゾン)等に関して、基礎的な知識・技術を実習体験や研修プログラムを行う。同校は、国際的なプロフェッショナルな人材を育成しており、その独創性と専門技術を身に付け、国際的な視野で新たな価値を創造する人材育成を目指している。そうした学習環境で指導を受けることにより、日々進化するファッション業界の現在を体感し、グローバルに活躍するための国際感覚ファッション業界へ思いを強くするとともに、自分の将来の目標を明確にし、自分の感性と表現力を世界を相手に発信できる視野を広げる機会とする。

また、エスモードパリ校の学生との交流会も実施し、ファッションの発信地であるパリの文化を理解するとともに、世界における日本文化を再認識する機会とする。さらに、パリ市内の衣装資料館や美術館、展示会の見学、パリ市内のマーケットリサーチなどを行う。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」、「ファッションデザイン」、「服飾手芸」の発展学習として実施する。

②専門学校との連携、高等学校との交流

○文化服装学院との連携

文化服装学院は、平成25年度、文部科学省委託事業「テキスタイル及びクリエイティブ分野におけるグローバルな人材育成プロジェクト」～インターネットICT技術を利用した遠隔授業-高校の通常授業と連携した内容で、レギュラー授業として組み入れることのできるプログラム<専門学校から授業を配信>～の実績がある。本校は、平成22年度から文化服装学院と県立高校では日本で初めて遠隔授業を実施し、検証を重ねている。

今後、遠隔授業を更に充実させ、ファッション産業の構造からファッション流通、小売業態、経営など、ファッションビジネスに関する基本知識とともにファッションコーディネートや新しい素材、アパレルの種類、特性、構造やパターン、技術を知るための造形や商品知識、素材や色彩、スタイリングなど、ファッション商品に関する基本を習得する。さらに、マーケティングにおける商品やトレンド、接客などのリサーチや接客対応の技術、商品のディスプレイや陳列、売場に関わる計数などを学びながら、ファッションビジネスを調査研究するマーケティングの実証、コスト意識などの経営感覚をもったクリエイターを育成する。

○海外の高校生との交流

本校は、平成26年度専門高校生国際化推進事業の一環で、韓国の安山デザイン文化専門高校との交流を実施しており、今年度は、文化服装学院と、同専門高校との3校間交流により、ファッションに関する国際理解を深め、ファッション業界への一層の高い志をもち、就職に対するモチベーションを高くするなどの学習意欲を高める。さらに、お互いの国を理解することや、自国を見つめ直すこと、そして、コミュニケーションツールとして、日本語以外の言語の必要性を強く感じる事が可能である。

○国内高校生との交流

福岡県立香椎高等学校、那覇工業高等学校と、同じファッションを学ぶ生徒同士、さらには指導する教員の交流を通して、デザインの発想方法やファッションの表現方法など、より高い質の情報交換を行い、今後の教育活動に資する。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「ファッションデザイン」に位置付ける。

③語学力の育成

英語によるコミュニケーション力の育成を目指し、語学指導講師（地元住民で英会話講師を行っている外国人）を招聘し、年間40回の英会話講習を行う。同講習において、日常英会話の習得のみならず、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を身に付ける。具体的に、洋服のアイテム名、素材名、スタイルなどのファッションに関する専門的英単語を習得するとともに、ファッションに関わる仕事で役立つ英会話力の習得を目指し、実際の場面を想定したロールプレイングやペアワークを通して、ファッションビジネスで役立つ実用的な会話技術を身に付ける。また、時事問題を扱うニュース番組やウェブサイト、新聞・雑誌などを活用し、グローバルな視点からファッション情報を収集する。次年度以降は、外国語の単位数を増やし、また、英会話講習（7限目実施）を行い、継続的に語学力や英語によるコミュニケーション力の育成を目指す。また、英

語検定2級にも挑戦し、合格を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」、「ファッションデザイン」の発展学習として実施する。

(3) 専門技術と独創性の育成

ア 研究のねらい

高い専門的な技術を習得するため、日頃の学習で得た知識や技術をもとに、資格取得や技能試験及びファッションコンテストなどに挑戦させ、達成感や成就感をもたせ、学習意欲の向上を図る。

イ 具体的な事業内容

① 高度な資格取得への挑戦

一般財団法人日本ファッション教育振興協会により主催・認定されている検定試験である以下の3つの検定取得に向けて取り組む。

○ 「ファッション色彩検定」2級合格率80%

現在、同検定3級は1年生の1月に受検し、ほぼ100%合格している。一方2級は、2年生の7月に受検するが、合格率は50%程度に留まっている。同検定取得者は、アパレル販売職には有用であり、企業からの要望も強い。また、専門学校へ進学後、さらに上位級を目指し努力をしている生徒が多い。色彩は視覚的に学ぶ必要が高く、合格率を高めるためには、カラー教材を多く導入し、効率よく学習させる必要がある。合格率80%を目指す。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「ファッションデザイン」において位置付け、進路実現を目指した資格取得を実現する。

○ 「ファッションビジネス検定」3級合格率90%

同検定は、3年生の希望者が9月に受検し、平成26年度の合格率は75%であった。3級においては、「ファッションビジネス知識」と「ファッション造形知識」の2科目で構成されているため1, 2年で学ぶ基礎的なファッション造形知識の上に、ファッションビジネス知識を関連させた指導を強化することにより、合格率90%を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「選択ファッションビジネス」において取組み、進路実現を目指した資格取得を実現する。

○ 「パターンメイキング検定」3級合格率70%

同検定は、3年生の希望者が受検しており、一次試験(理論と製図)の合格率は70%であり、二次試験(実技)は、経験値が必要となり容易ではないが、現在は50%に留まっている。特に、実技試験においては、夏期休業中に特別授業を実施し、業界での勤務経験のある服飾系の専門学校の講師による講習を受講している。今後は、最終合格率70%を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「選択ファッションデザイン」において取組み、進路実現を目指した資格取得を実

現する。

②全国レベルのコンテストに挑戦

例年多くのコンテストに応募し最終審査に参加する中で得たコンテスト毎の志向などの情報を共有し、デザイン発想、製作指導に当たっている。また、デザインの工夫だけでなく、テキスタイルから創作した作品が高評価されるため、素材の知識や工芸技法の応用力が必要となる。生徒には多くのコンテストの最終審査会やプロのデザイナーの作品を鑑賞させる機会を設けることで感性を磨き、さらに、伝統工芸などの専門家から技術を学び、作品に応用する力を身に付けさせる。また、ファッションのみにとらわれることなく、多くの美術作品や研修で訪れる各地の景観を鑑賞させることも、豊かなデザイン発想力や、素材開発力に繋がり、さらにポートフォリオ作成などを通して導き、コンテスト入賞実績をあげる。

③校外研修

○美術館・企業見学

1年生が5月に近隣の美術館及びアパレル企業を見学する。芸術作品を解説と共に鑑賞し美的感性を養い、地元アパレル企業を見学することで地場産業への理解と関心を高める。

[教育課程上の位置付け]

1年生科目「生活産業基礎」に位置付ける。

○東京研修

2, 3年生の希望者15名程度を対象に11月(1泊2日)に実施する。文化服装学院においてファッションショーを鑑賞し、卒業研究作品製作及び卒業研究作品発表会のショー構成を学習する。また、美術館やファッション関連の展覧会を鑑賞、表参道、渋谷、原宿、銀座などでマーケットリサーチをし、ファッション感覚を磨くとともに、最新の情報を得る。日暮里繊維街では素材のリサーチをしたり、エスモード東京校においては、外国人留学生との交流を行い、ファッションの知識や技術の共通性に気付かせるとともに、発想やデザイン性の違いを認め合い、国際感覚を磨く機会を設定する。さらに、同研修の中で、パリのオートクチュールデザイナーの展覧会やプロのデザイナーのコレクションを見学する。研修後は、報告会を実施し情報を共有することで作品製作に反映させる。

3月には、2年生の希望者により、東京ファッションウィークの見学をし、マーケットリサーチを行うことで卒業作品製作のデザイン発想のヒントを得る。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「ファッションデザイン」、「ファッションビジネス」、3年生科目「ファッション造形」の発展学習として実施する。

○京都研修

6月に3年生全員で実施する。生徒は、卒業研究作品発表会の研究グループで、班毎にテーマを決めて伝統工芸体験やマーケットリサーチなどの研修計画を立て、京都研修を実施する。この研修では、長い歴史の中で、先人達が築いた日本独自の和の美しさを体感し、世界と比較しても比類なき素晴らしい価値のある財産としての存在を再認識する。さらに、昨今の着物文化につい

て、和柄の存在自体も危ぶまれる今こそ、注視し、その存在に触れることは、今後のファッション業界、繊維産業を担う人材の育成として貴重な研修の場となる。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「服飾手芸」の学習の一環として伝統工芸理解と文様、和模様の研究、マーケットリサーチを実施する。

○地場産業見学（再掲）

羽島マテリアルセンターと一宮繊維街のリサーチを各学年で実施する。また、2月上旬に一宮で行われるJAPAN YARN FAIR&総合展「THE尾州」の見学を通して、地元素材の良さを再発見し、それらを使用したオリジナルファッション開発への興味関心を高める。

[教育課程上の位置付け]

1年生科目「生活産業基礎」、2年生科目「ファッションビジネス」、3年生科目「服飾手芸」において研修を位置付け、各学年に合った内容を学習する。

④遠隔授業

テレビ会議システムを利用して、文化服装学院と遠隔授業を実施する。

[講師（予定）]

神山勝雄氏（文化服装学院非常勤講師 ISSEY MIYAKEの国内ブランドデザイン担当後、KDS（神山デザイン事務所）を設立し、数々のデザインを手がける）

山田とし子氏（文化服装学院 専任講師 アパレル素材・染色・品質）

川上 利恵氏（文化服装学院 専任講師 セールスワーク）

伊藤 望 氏（文化服装学院 テキスタイル関連研究室）

食物科

（1）地域の関係機関や産業界と連携した「食」の研究・提案

ア ねらい

多様な消費者のニーズに対応するために、地域の関係機関や大学、企業から指導助言を受けながら新たな商品・サービス開発、レシピの提案を行う。

イ 具体的な事業内容

①地域の関係機関（JAにしみの、岐阜県農政部・商工労働部、西濃・岐阜地域市町村）と連携

○消費者ニーズの調査、分析

「JAにしみの本店」の敷地内にあるファーマーズマーケットにて、野菜などの農産物について消費者動向を調査する。ファーマーズマーケットに来店した消費者に購入の際に重視する点、その調理法などの聞き取り調査をする。また、県内や西濃地域の農産物の生産品目や生産量流通状況について調査する。調査結果から特に県内外にアピールしたい、消費を促進したい農産物を分析する。

[教育課程上の位置付け]

1年生科目「生活産業基礎」、2年生科目「調理」、3年生科目「課題研究」において位置付ける。

○地域食材「にしみのブランド」のおすすめレシピの開発と提案

地域食材の品種や特徴を調査・研究し、その特徴を生かした調理法を研究することを通して、食農教育を推進し、食と農と地域と自然環境の関わりを重視するとともに、食料を生産する「農」の役割や重要性を理解・体験しながら、食の大切さ、食を支える農の役割、食と健康の相関関係等に対する理解を広めるよう地域の人に受け入れられ、普及しやすいレシピを開発する。

[教育課程上の位置付け]

1、2、3年生科目「調理」で実施する。実施時期は、1年生11月～レシピ提案、2年生8月～レシピ提案、3年生4月～レシピ提案やレストラン実習にて試食

○地産地消の推進に向けた地域食材活用の提案

地域農産品の特徴を生かしたオリジナルレシピを、リーフレットにしてマーケットの商品近くに設置し地域農産物の消費拡大に貢献する。また、3年生科目「調理」で実施しているレストラン実習のレストラン献立に、地域食材を活用した料理を取り入れ、校外からの試食者には家庭で作りやすい材料や分量のレシピを提供する。さらに、レストラン実習で作った料理をファーマーズマーケットで販売する弁当に取り入れる。

また、岐阜県の農政部農産物流通課と連携し、6次産業化商品の生産から流通・販売までを学び、アンテナショップ「ジ・フーズ」へ参加・協力し、効果的なプロモーションの展開を意識した取組や、食産業界のニーズを反映させた「食」に関するプロジェクトの企画・提案・実践を行う。

他方で、世界無形文化遺産とされた「和食」の3つの内容「多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重」「栄養バランスに優れた健康的な食生活」「自然の美しさや季節の移ろいの表現」の理解し、さらに、日本文化と異国文化の相互の理解を深めるために、特に、地域農産物を使った食文化研修会等を開催し、地域に暮らす外国人との共生を含めた魅力あるまちづくりに貢献する。地域の食材を活用した和食「和桜 WAZAKURA」を国内外に発信する。この取組の中で、海外の高校生との交流は、TV会議システムを利用して、積極的に「食」に関する交流を推進する。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「調理」、「課題研究」において位置付ける。科目「課題研究」では、調理で考えた料理を商品化できるように効果的なプロモーションの展開を意識した取組や、食産業界のニーズを反映させた「食」に関するプロジェクトとして企画・提案・実施できるように研究を進展させる。

②岐阜女子大学との連携

大学と連携し、地域の食文化の発展や住民の食生活の改善、健康にも貢献できる実践的な活動を通して、専門的な知識の習得や、栄養、食文化について理解を深める。

[教育課程の位置付け]

1年生科目「食文化」、2年生科目「栄養」、3年生科目「課題研究」

○地域食材 米「ハツシモ」の米粉を利用した商品・レシピ開発

「ハツシモ」は、県内で最も多く生産されている米で、精米時に発生する割れ米や米粉を微粒製粉した米粉は、平均粒径が通常の米粉より細かいため、米粉パン、ケーキやクッキー、天ぷら

衣など様々な用途が考えられる。一方、岐阜女子大学の健康栄養学科では治療用米を製造する際に不要となる米粉の利用法を研究している。そこで、大学で「ハツシモ」の味や粘性、栄養面などの特徴を学び、その特徴を生かしたレシピを開発し、地域食材の利用・消費の拡大に貢献する。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「栄養」、「調理」において位置付ける。

③語学力の育成（再掲）

英語によるコミュニケーション力の育成を目指し、語学指導講師（地元住民で英会話講師を行っている外国人）を招聘し、年間40回の英会話講習を行う。同講習において、日常英会話の習得のみならず、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を身に付ける。具体的に、英語によるレシピ作成や、調理説明ができる語学力も育成する。次年度以降は、外国語の単位数を増やし、また、英会話講習（7限目実施）を行い、継続的に語学力や英語によるコミュニケーション力の育成を目指す。また、英語検定2級にも挑戦し、合格を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「課題研究」

④大型スーパーでの販売実習

中部・関東で食品スーパーとホームセンターを展開している「株式会社バロー」で、消費者ニーズを捉え、ターゲットを明確にしたオリジナルレシピを商品化して販売する。販売の際は、生徒が販売員としてレシピカードを添え、説明しながら接客にあたる。

[教育課程の位置付け]

2年生科目「栄養」、「調理」において位置付ける。

(2) 勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション能力の育成

ア ねらい

現在、食産業界で活躍している専門家の講演会や講習会、現場実習を通して、勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。

イ 具体的な事業内容

①食産業界で活躍している専門家の講演会、講習会の実施（年4回）

食産業界で活躍している専門家の講演や講習会による、ものづくりや食に対する情熱、現在に至るまでの体験談等を通して、生徒自身の未来像を具体化させ、学習意欲の向上を図る。

[教育課程上の位置付け]

1年生科目「生活産業基礎」、2年生科目「家庭総合」、3年生科目「課題研究」において位置付ける。実施時期6月頃に行い、早期に具体的目標をもたせ、学習意欲を高める。

②インターンシップの実施

2年生の8月、3年生の6月に4日間インターンシップを実施する。インターンシップを通して、食産業界に対する正しい理解と関心を深め、望ましい勤労観、職業観を身に付ける。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「家庭総合」、3年生科目「調理」、「公衆衛生」、「食品衛生」に位置付け、現場実習を通して、実践的学習を行い勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。

③ レストランでの模擬経営実習

大垣市内のレストランにて、生徒が週末オーナーシェフ、厨房スタッフ、ホールスタッフとして消費者のニーズや地域食材の旬や栄養価などを研究して献立を立て、調理、サービス、衛生管理まで行い調理師の業務全体を理解する。また、実際に接客することにより、達成感や成就感を体感し、さらによいものを作ろうとする意欲、自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育成する。

[教育課程上の位置付け]

3年生科目「調理」、「公衆衛生」、「食品衛生」に位置付け、4月から実践的な取組として実習を行う。

④ 学校設定科目「フードビジネス」の設定

2年次において、外食産業、企業の経営、財務管理、飲食店の開業について、専門的な知識を習得し、フードクリエイターとして必要な素養を育成する。

[教育課程上の位置付け]

普通教科科目「現代社会」、「数学」、専門科目「生活産業基礎」の学習内容と関連付け、3年生科目「課題研究」に発展できる学習内容とする。

(3) 高度な調理技術と幅広い知識を身に付けた人材の育成

ア ねらい

専門学校や高等学校、岐阜調理師連合との連携を通して、高度な技術を身に付け、豊かな感性や幅広い知識、創造力を磨く。また、各種コンクールに挑戦し、外部の評価を受け、達成感や成就感をもたせ、学習意欲の向上を図る。

イ 具体的な事業内容

① 調理系専門学校「辻調理師専門学校」との連携

本校は辻調理師専門学校と連携協力校として年間授業協力を受けている。1年間の学習期間でプロの世界で通用する技術力を育てる専門学校の技術指導を受講し、基礎技術の体得を目指す。また本校教員もその指導方法を学ぶ。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」において、それぞれの技能に合わせ、技術向上、発展的な取組として行う。

② 「三重県立相可高等学校」との交流

三重県立相可高校は昭和23年に創設し、現在は普通科・生産経済科・環境創造科・食物調理科の4学科を開設している。「まごの店」という高校生が運営するレストランがあるとメディアで紹介され、全国規模のコンクールで数々の入賞も果たしている。また、「せんぱいの店」とい

う卒業生が運営している店舗もあり、後輩の意欲にも繋がっていると思われる。同じ調理師を目指している高校生として、どのように意識や技術を高めているか、「まごの店」で実際の接客や料理を体験し、技術や職業意識の向上についてなど生徒間交流を実施する。

[教育課程上の位置付け]

2年生科目「調理」に位置付け、調理師を目指している高校生として、どのように意識や技術を高めているか、技術や職業意識の向上についてなど生徒間交流を実施する。

③「岐阜県調理師連合会」との連携

岐阜県の調理師の資質や向上をあげるため、技術コンクールや料理講習会を行っている岐阜県調理師連合会と連携し、職場で求められる調理師の素質、考え方、知識や技術などを具体的に話していただく。また、調理師として働くことの魅力や生きがい、必要な実践的調理技術・知識、調理師を目指す。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」において、それぞれの学習内容に合わせ、技術向上のための取組を行う。

④全国レベルのコンテストに挑戦

多くのコンテストに応募・参加し、日常の学習活動を通して習得した知識・技術をさらに高めるとともに、魅力ある料理の演出など、食空間の演出や料理を美味しく表現するフードクリエイターを育成する。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」において、発展的な取組として行う。

⑤調理・フード系資格取得と技術コンクールへの挑戦

調理師には調理や栄養、衛生などの知識技術の他に、料理の演出や食文化、食に関わる広い教養も必要な資質であると考えます。料理をよりおいしく表現するフードコーディネーター、食空間すべてを演出するテーブルコーディネーターやカラーコーディネーターの学習に取組、その成果として資格取得に挑戦する。

【効果測定について】（両学科共通）

①資格取得・技能試験、コンテスト等への入賞結果等による測定（定量的評価）

知識・技術を習得したかどうかの客観的な指標として、各種検定試験や技能試験等の取得が挙げられる。資格・検定の取得は、生徒の学習意欲を高めるとともに、平素の専門的学習到達度の客観的評価を得る手段として、また、将来の職業に求められる能力や資質として直接的に結びつく有効な手段でもある。また、各種コンクール等への参加を通して現在の取組を外部評価することも、生徒のモチベーションを上げ、参加までの取組過程で、様々な課題と向き合い、課題解決に意欲を示す取組となる。

本事業による評価としては、下記のような評価方法を考えている。

<両学科共通>

- ・企業連携による商品開発

- ・全国規模の各種コンクールにおける入賞数増加

<服飾デザイン科>

- ・ファッション色彩検定 2級合格
- ・ファッションビジネス検定 3級合格
- ・パターンメイキング検定 3級合格

<食物科>

- ・調理師 資格取得
- ・技術考査（専門調理師筆記試験に相当） 合格
- ・フードコーディネーター資格試験 3級合格
- ・食生活アドバイザー 資格取得
- ・食空間コーディネーター（テーブルコーディネーター） 3級 資格取得
- ・カラーコーディネーター 3級 資格取得

②アンケート調査等による測定（定性的評価）

教育課程の科目に位置付けたそれぞれの事業の取組に対して、職業人として育成すべき必要な能力の洗い出しを行い、その具体的な評価方法（パフォーマンス評価やルーブリック等）を授業実践の中で段階的に研究を進める。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」など、これまで比較的、評価が困難であった項目においても、適正に評価する方法を模索するとともに、目標に準拠した評価の確立を目指す。また、専門的な知識・技術の習得過程である学習活動において、生徒の自己評価や他者評価、教員同士の評価、大学教授、企業関係者等の有識者による外部評価等、様々な評価手法を活用し、生徒を多面的に捉え、分析的に評価する。具体的には、事業プログラムに取り組む前後で、生徒がどのように変容したのかを、授業者による生徒評価、専門家による生徒評価、生徒による自己評価などのアンケート調査を実施する。

生徒の変容について次の観点について評価する。

ア) 関連産業への関心の変容→・高校卒業後の進路意識

- ・地域経済・中小企業への関心

イ) 社会人基礎力の伸長→・実行力

- ・課題発見力
- ・計画力
- ・状況判断力
- ・柔軟性

ウ) 多様な学習評価法の研究

- ・パフォーマンス課題を設定し、その評価の方法としてルーブリック評価を用いる評価方法の開発に取り組む。

【研究成果の普及】（両学科共通）

卒業研究作品発表会を通して、学校関係者及び保護者、地域の方に研究成果を発表する。また、研究過程や成果を、随時、学校ホームページに掲載したり、県内専門高校の学科主任が一堂に集う高等学校職業教育関係学科主任等連絡協議会で発表するなど、研究成果の普及を図る。

また、全国高等学校長協会家庭部会被服・服飾デザイン系高等学校長会総会・研究協議会並びに

学科主任研究協議会や全国高等学校長協会家庭部会食物系高等学校長会総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会において、研究課程や成果、課題を発表し、先進的な取組を発信する。さらに、独立行政法人教員研修センター委託全国高等学校長協会家庭部会が主催する産業・情報技術等指導者養成研修での発表機会を検討するなど、全国公立私立高等学校家庭科教員へ普及を図る。

5. 実施体制

(1) 研究担当者

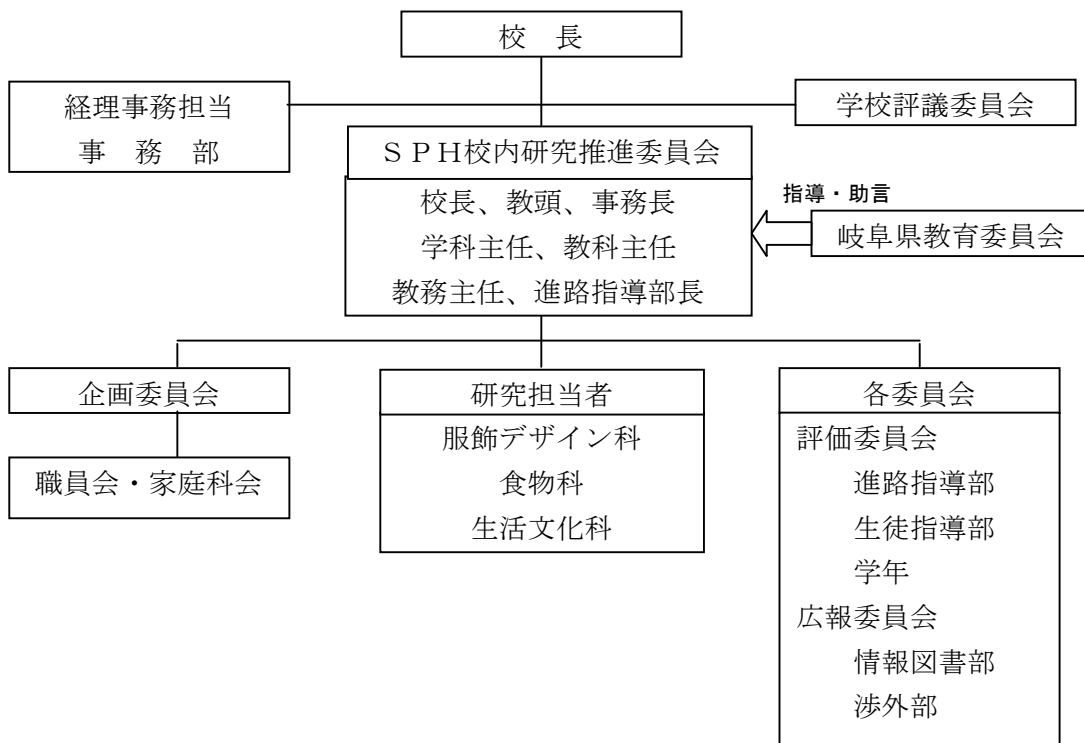
氏名	職名	役割分担・担当教科
渡辺 美智子	校長	企画運営：家庭
猿井 久美子	教頭	企画運営：家庭
柴田 幸美	教諭	研究推進担当：家庭（服飾デザイン科長）
高橋 路子	教諭	研究推進担当：家庭（食物科長）
奥田 昌興	教諭	教育課程：数学（教務主任）
瀬下 裕基	教諭	研究推進・広報担当：家庭（服飾デザイン科）
澤田 尚子	教諭	研究推進担当：家庭（服飾デザイン科）
各務 こづえ	教諭	研究推進担当：家庭（服飾デザイン科）
河村 素子	教諭	研究推進・広報担当：家庭（食物科）
坂 美里	教諭	研究推進担当：家庭（食物科）
高木 ゆか	教諭	研究推進担当：家庭（食物科）
後藤 さとみ	教諭	研究担当：家庭（家庭部長・生活文化科長）
宮田 慶美	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
増田 恵子	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
酒井 美也	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
新川 幸子	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
郷 絵美	教諭	研究担当：家庭（生活文化科）
西尾 歩美	教諭	研究・広報担当：家庭（生活文化科）
岡田 浩一	教諭	海外研修・留学生交流担当：社会
橋本 純	教諭	海外研修・留学生交流担当：社会
福島 洋之	教諭	海外研修・留学生交流・英会話担当：英語
山田 智子	教諭	海外研修・留学生交流・英会話担当：英語
青木 哲郎	教諭	情報配信：理科
松本 真美	講師実習助手	経理文書担当
鳥居 さやか	講師実習助手	経理文書担当

(2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
渡辺 美智子	県立大垣桜高等学校 校長	企画・運営
猿井 久美子	同上 教頭	企画・運営

奥田 昌興	同上 教務主任	企画・運営
福島 洋之	同上 進路指導部長	企画・運営
宮田 慶美	同上 生徒指導部長	企画・運営
近藤 好弘	同上 特別活動部長	部活動企画・調整
柴田 幸美	同上 服飾デザイン科長	研究推進責任者
高橋 路子	同上 食物科長	研究推進副責任者
後藤 さとみ	同上 生活文化科長	研究推進副責任者
橋本 純	同上 社会科主任	海外研修
山田 智子	同上 英語科主任	海外研修・英会話指導
吉田 光孝	名古屋モード学園 統括責任者	指導助言：ファッションに関する学習
高橋 真弓	ESMOD TOKYO 事務局コーディネーター	指導助言：海外研修コーディネート
水野 幸子	岐阜女子大学 長寿健康栄養 センター長	指導助言：「食」の研究・提案
片山 耕一郎	辻調理師専門学校 西洋料理教授	指導助言：専門調理技術
浅野 久一郎	J Aにしみの 指導販売部 販売課 調査役	指導助言：地域食材
早野 寛仁	岐阜県農政部 農産物物流課 6次産業化係長	指導助言：地域産業連携
塚原 雅巳	岐阜県商工労働部 海外展開 促進係 課長補佐兼係長	指導助言：地域産業連携
高賀 敦子	愛知みずほ大学短期大学部 特任教授	指導助言：研究推進

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期 服飾デザイン科

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)地元企業とコラボレーション (1)-① 岐阜県繊維協会、生地製造企業との連携 (1)-② 名古屋モード学園、地元アパレル企業との連携	テーマ設定 コンセプト提案	マテリアルセンタ見学 コンセプトプレゼンテーション		繊維製造施設見学							卒業研究会での成果発表	
	岐阜県警による講習会	デザイン発想・提案・企業、警察とのミーティング			作品製作						次年度卒業研究作品発表会のデザイン出し	
		企画会議1	企画会議2		インターンシップ	商品製造						
(2)国際感覚とコミュニケーション能力の育成 (2)-① 語学力の育成 (2)-② エスモードジャパンとの連携 (2)-③ 文化服装学院との連携	英会話講習会（年間40回）											
	デザイン講習会	フランス人留学生との交流	デザインパターン講習会		デザインパターン講習会	フランス研修						ファッションショー見学
		香椎高校との交流		韓国研修	那覇工業高校との交流			韓国との遠隔授業1		韓国との遠隔授業2		
(3)専門技術と独創性の育成 (3)-① 高度な資格取得への挑戦 (3)-② 全国レベルのコンテスト挑戦 (3)-③ 校外研修 (3)-④ 遠隔授業	ファッション色彩能力検定2級 ファッションビジネス検定3級					ファッション色彩能力検定3級						
	パターンメイキング検定3級											
	コンテストに挑戦											
		美術館・京都研修 アパレル企業見学						東京研修1				JAPAN YARN FAIR 見学
	遠隔授業1		遠隔授業2						遠隔授業3			

食物科

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)地域の関係機関や産業界との連携した「食」の研究・提案	テーマ設定 コンセプト提案											
(1)-①地域の関係機関との連携 消費者ニーズの調査、分析-		消費者ニーズ調査						市場見学				
地域食材「にしみのブランド」のおすすめレシピの開発と提案	レシピ開発	レストラン実習		レシピ開発			レストラン実習		レストラン実習			
地産地消の推進に向けた地域食材活用の提案 ・「和桜 WAZAKURA」の提案			留学生との交流	地場産業の研究	地域食文化研究会							
		英会話講習会										
・アンテナショップ「ジフーズ」への参加			流通・販売		名古屋研修							
(1)-②岐阜女子大学との連携 地域食材 米「ハツシモ」の米粉を利用した商品・レシピ開発 大型スーパーでの販売実習			地域食文化研究会		共同実習	食材研究						
							販売実習					
(2)勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション力の育成												
(2)-①食産業界で活躍している専門家の講演会、講習会			専門家講習会		専門家講習会		専門家講習会			専門家講習会		
(2)-②インターンシップの実施			インターンシップ		インターンシップ							
(2)-③現場実習			レストラン実習	→								
(2)-④学校設定科目「フードビジネス」の設定		教育課程見直し	教育課程提案									
(3)高度な調理技術と幅広い知識を身に付けた人材の育成		辻調理師専門学校		辻調理師専門学校			辻調理師専門学校			辻調理師専門学校	辻調理師専門学校	
(3)-①調理系専門学校との連携												
(3)-②校「三重県立相可高等学校」との研修												
(3)-③「岐阜県調理師連合会」との連携			実技指導		実技指導		実技指導		実技指導			
(3)-④全国レベルコンテストに挑戦	コンテストに挑戦											
(3)-⑤調理・フード系資格取得と技術コンクールへの挑戦	資格取得、技術コンクールへ挑戦											

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
なし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 無

※有の場合、別紙様式7に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載